

# 初恋を思うべし

南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館

NO.9 (2019年4月1日号)

いよいよ平成時代最後の発行となりました。当記念館も平成12年4月に完成しましたので、2つの時代をまたいで歴史を刻んでいくことの感慨を覚えます。犬養孝先生のご尊父も皇宮警察に勤務しておられましたし、皇室とのご縁は特に昭和天皇とは深く、昭和54年には歌会始の召人として宮中で臨席されたり、同年には陛下を甘樫丘にご案内されたり、また、新年の宮中での講書始で「玉となる石」の東国歌をご進講されたり、私たち門下生も犬養先生から貴重な思い出を聞かせて頂いております。

新天皇となられる皇太子殿下については、学習院時代の修学旅行で明日香村に来られた時に犬養先生がご案内されたことは、今回の初恋通信に掲載されています。古代史、また大和国とも何かとゆかりの深い天皇家ですので、新天皇が明日香村を訪問される日も近いことでしょう。即位されるこの時期を私たちに10連休という特別の節目にされたことを新たな時代へ心を切り替えるよい機会として過ごしたいものです。



## 記念館歳時記



月1度の岡本館長万葉講座が50回を超えました。「みんなで歌おう、童謡唱歌」も楽しく集い、地元の方々にも愛される館をめざしている館にとっては明日香村のご婦人方の参加がうれしいです。



馬場吉久講師の万葉植物講座が大人気。遠方からのリピーターもあり、植物散策だけではなく知られざる明日香路を歩いたり、万葉朗唱も魅力のようです。



3か月に1度の機会ですが、中西久幸氏と尾崎瑞穂氏と脇田宗孝名誉館長の蘊蓄と、SPレコードのなつかしい調べにほっとするひとときです。遠来の客人も増えてきました。



明日香村伝承芸能保存会の後継をめざして小学生が記念館で練習を始めて3年余。昨秋、万葉の歌音楽祭に出演し、明日香賞を受賞しました。



犬養孝先生の没後20年を追悼し、11月には初恋通信を連載して下さる山内英正氏に「犬養先生を語る」講話を、また12月に岡本館長が万葉うたがり会の協力を得て、追悼コンサート。門下生がまだまだ健在です。

## 犬養先生の碑



大和から紀伊への途上の巨勢路は春爛漫の花盛り。御所市阿吽寺の境内には椿の花に囲まれてはるかしげに？歌碑がたたずんでいます。

②⑧巨勢山の つらつら椿 つらつらに見つ思はな 巨勢の春野を

(巻1-54)

今年5月には新しい御代を迎える。昨年の「明治150年」は掛け声ほどには盛り上がりせず、災害が頻発し格差社会が進行するなか、国民のデフレマインドは払拭されなかった。政治家は「誠意をもって」や「寄り添って」といった空疎な言葉を何度発したことだろう。その一方で、天皇・皇后両陛下や皇太子殿下の「お言葉」に「言霊」の力を強く感じさせられた。

昭和53(1978)年10月、徳仁親王(御称号、浩宮)が学習院高等科2年の修学旅行で飛鳥から吉野に来られた時、犬養先生が終日案内した。先ず高松塚を訪ね桧隈の説明を終えたあと、唱歌「故郷」に触れながら山野を顧望した。続いて文武天皇陵を参拝し、最後に甘樫丘の山頂に登った。先生の甥の淳さんも同級生、御学友として一行の一人であった。吉野へ向うバスの中で、先生が「学校ではお昼の御飯はどうなさっていますか。」と尋ねたところ、「高等科時代までは母が作ってくれます。食堂で皆といっしょに食べます。」と答えられた。

竹林院群芳園で先生は一行と夕食を共にし、食後に吉野万葉の講義をした。徳仁親王は洋間暮らして胡坐をかくことはないため、立て膝のような格好で座っていたが、講義内容を熱心にノートに筆記された。

翌年の昭和54(1979)年1月の歌会始に先生は召人として招かれ、自作を献呈した。当日、坐骨神経通のため天皇陛下の思召しで車椅子使用を余儀なくされた。退出する時に東宮侍従から、皇太子殿下と徳仁親王殿下が大変心配しておられるとの言葉があった。さらに東宮侍従が書いた徳仁親王の「丘」の歌を、書陵部の橋本不美男氏から手渡された。その歌は、前年の修学旅行の思い出を詠んだものだった。

甘樫の丘の上に聞く 師の御声 遠き昔を  
思ひめぐらす

さらに翌年の昭和55(1980)年春、先生は東宮御所へ御礼と御詫びに伺った。その時の様子を次のように記している。

「やがてお召しがあって、わたくしは客間のドアをあけた。今上陛下(以下皇太子殿下と申し上げる)は、徳仁親王をまん中にして、皇太子殿下、美智子さまと、徳仁親王殿下の両脇に直立不動の姿勢で立って居られるのではないかと。わたくしは、突然の事に、恐縮至極、言葉も出ないありさまであった。徳仁親王殿下の恩師を迎えられるお心組みであられたのであろう。当時の、皇太子殿下御夫妻の深いお志しに、ただただ恐縮、恐縮申しあげるばかりであった。しかもわたくしが、進められる席に着くまでは、皆様は立っていらっしやるのではないかと。」(『祖國と青年』24巻5号、1993年5月。所収『萬葉とともに 続』犬養万葉顕彰会、1994年)

この時にお茶と一緒に出されたあられを2、3粒口に入れたが、生菓子はいただくべきかそのままにしておくべきか悩んだ末に、そのままにして退出した。生菓子をいただかなかったことが唯一心残りであったと、私に何度も残念そうに話された。

徳仁親王は御成年になり神武天皇陵を参拝された時、神武陵に犬養先生を呼び親しく話をかわされた。先生は橿原神宮前駅で乗車されるところまでお見送りした。

犬養先生は、昭和天皇・今上陛下・皇太子徳仁親王との邂逅を数多くの随想に執筆している。また、司会を含めて6人の座談会「日本酒が宮中晩餐会に百数十年ぶり復活」(大久保利美[編著]『天皇・皇后両陛下をお迎えして』産業倶楽部、1996年)の場でも、上述した皇太子徳仁親王との飛鳥の思い出を語っている。皇室の方々にとって飛鳥の地は、「遠つ祖」の特別な歴史舞台なのである。

「南都明日香ふれあいセンター 犬養万葉記念館」には、徳仁親王殿下の歌と犬養先生の献呈歌の色紙が、先生直筆で展示されている。

## これからの予定

- 4月7日(日) 第19回 若菜祭 10時~ご神事  
13時~16時30分 <万葉講演会> 村田右富実 関西大学教授  
<コンサート> 出演: 桜井混声合唱団 ほか  
(定員40名 2,000円)
- 4月23日(火)~6月4日(火) 第2回 越前市万葉館交流展
- 5月12日(日) 初夏の万葉植物野外講座  
「明日香奥山から八釣へ」 馬場吉久 講師
- 5月20日(月) ムジークフェストなら ピアノコンサート
- 6月16日(日) チコンキカフェ「初夏の調べ」
- 7月26日(金)~8月4日(日) 奥山永見古さん「万葉あーと展」
- 9月16日(月・祝) 万葉の歌音楽祭 ※石舞台公園にて
- ★毎月開催: 岡本館長万葉講座・みんなで歌おう童謡唱歌
- ※詳細については記念館にお問い合わせください。

## 編集後記

★昨秋、平成10年に逝去された犬養孝先生の20年命日祭が、兵庫県の西宮神社でつつがなく執り行われました。かつて先生のお世話をされていた吉本ご夫妻もご高齢になりましたが、お元気でお過ごしで何よりでした。

